

# 令和6年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業 キックオフミーティング 資料

活動団体の活動におけるテーマ

『京都・梅小路エリアのクリエイティブタウン化推進』

活動地域：京都市「京都駅西部梅小路・丹波口地域」

活動団体名：(一社) Design Week Kyoto実行委員会

中間支援主体名：梅小路クリエイティブプラットフォーム

# 活動団体と地域の紹介



KYOTO RESEARCH PARK



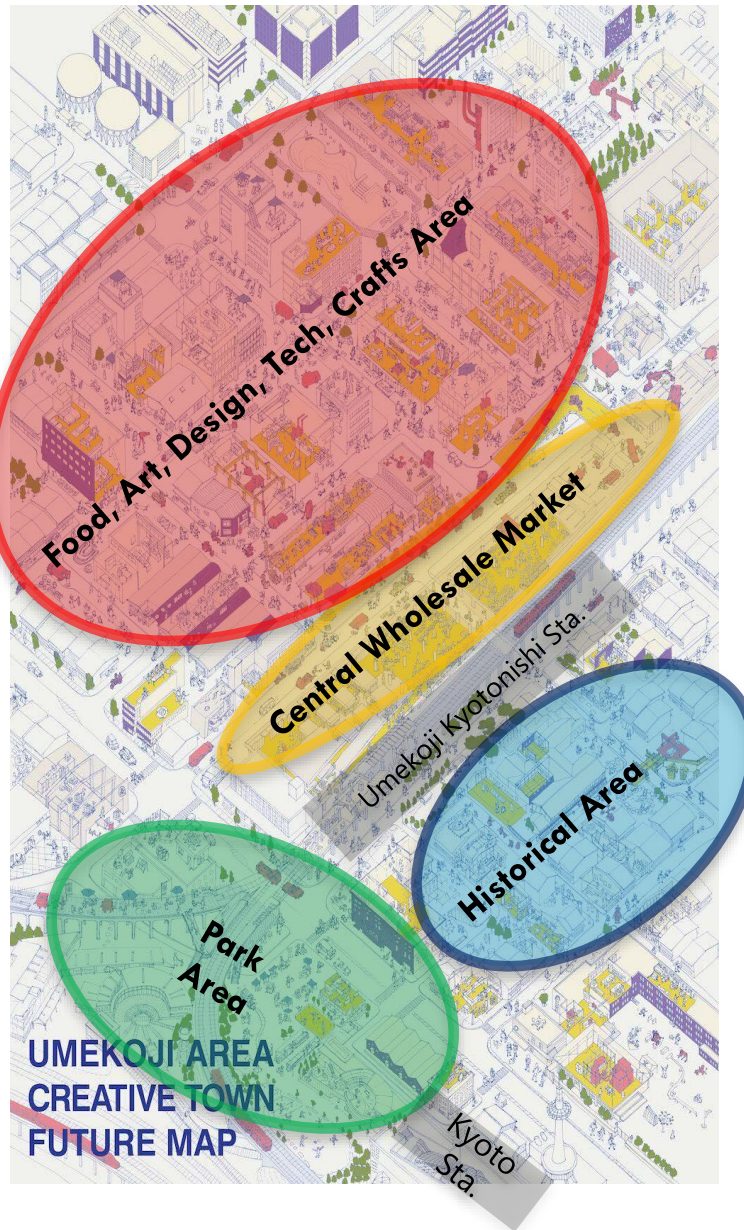
KYOTO MAKERS GARAGE



KAGAN HOTEL(Art hotel)



KYOTO BEER LAB(Craft Beer)



○近年「オープンハウス、オープンファクトリー」とも呼ばれている「モノづくりの工房・工場などのオープンウィークイベント」を中心とした交流事業を推進しています。

○「京都を、よりクリエイティブな街へ」を掲げ、変化に富む京都の自然と風土の中で、長い時間をかけて育まれた京都の多様なモノづくりの現場をオープンし、人が集い伝え合うことから始まる交流と、創造的な地域の未来につなげる活動を展開中です。

# 活動計画（概要）

地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

多様なプレイヤーが周辺部の農村等も含めた地域を愛し、自分ごととして捉えて主体的に関わり合う中で、環境意識を高め、自然なこととしてサステナブルな社会の構築に繋がっていく状態

地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

○梅小路エリア内の各団体、プレイヤーはもとより、地域住民も含めて多くのステークホルダーがお互いに顔が見える関係性の構築が必要  
○今回の取り組みをきっかけに、各ステークホルダーの役割を棚卸しし、各事業の実施を通し、役割連携し、一体感を持ち共通のビジョンに向かって活動継続していけるコミュニティの醸成を図る

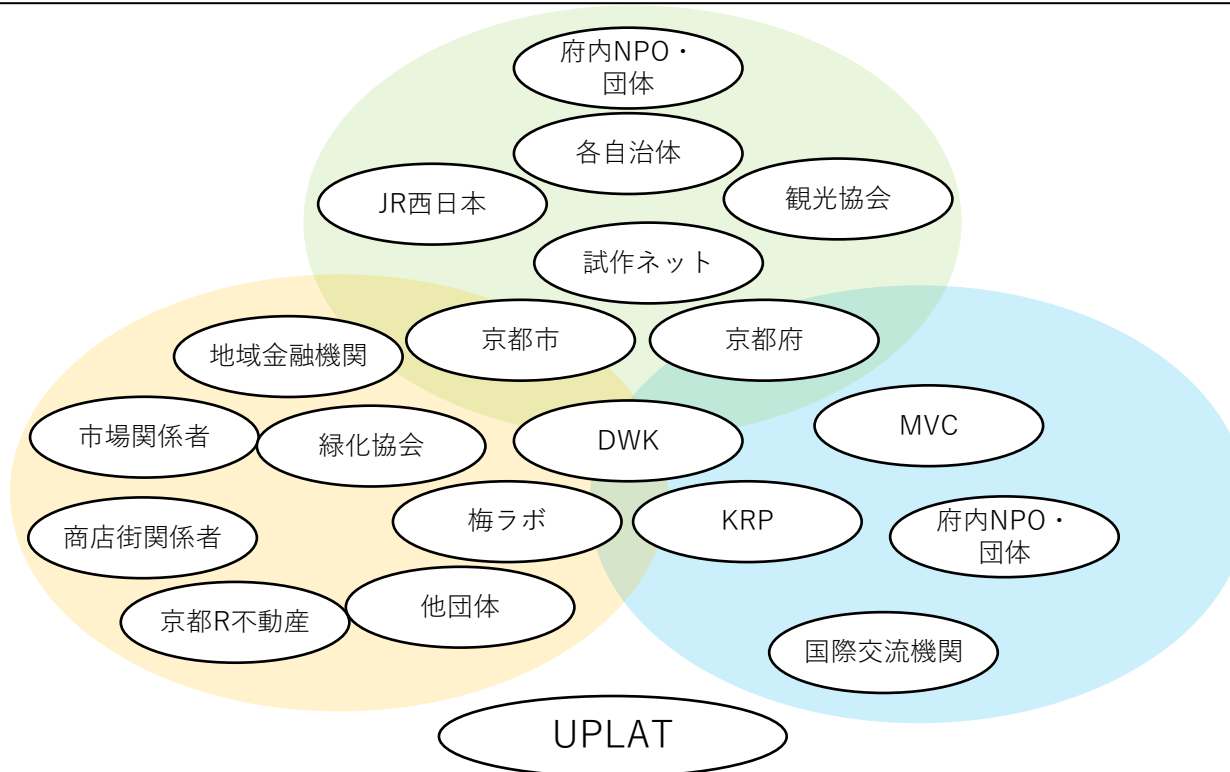
ローカルSDGs事業として取り組む内容

○梅小路公園での資源循環に関する活動を通じた、地域の市民の意識醸成  
・「資源がくるりプロジェクト」や「土中環境改善ワークショップ」など  
○廃棄物を活用したグッズやイベント備品等の制作、販売、レンタルによる環境意識醸成と収益化  
○サステナブルツアーの企画・実施と収益化  
・梅小路公園を発着地として、都市部での資源循環の理解と丹波地域など農村地帯での資源循環・共生のあり方を体験できるツアー

地域の現状

○梅小路エリアは、京都市中央卸売市場のある街として京の食文化という土壌のうえに、京都市内という立地の中では、遊休不動産等適度な余白があり、島原地域の歴史的街並み、梅小路公園の自然アメニティ、芸大生を始めとしたアート人材の流入等多様な街並みが近接し、人材も多様なエリア  
○JR駅「丹波口」は丹波街道の出発地点で、都市⇔農村のゲートウェイと言える  
○梅小路エリアには、多様なプレイヤーが地域活性化に向けた活動を展開中も、一体感としては不十分な状況

# 目指す“地域プラットフォーム”のイメージ



- ・ 梅小路・丹波口の地元・地元外へのイメージの共有・認知
- ・ 相互のさらなる交流とプレイヤーのさらなる見える化
  - ・ 共同での取り組みと安定化
  - ・ 国内外とのコーディネート人材
- ・ 一体的な情報発信やターゲットに合わせた発信

# ローカルSDGs事業の詳細

## 地域プラットフォーム（PF内のメンバーやコアメンバー）で生み出そうとしているローカルSDGs事業の詳細

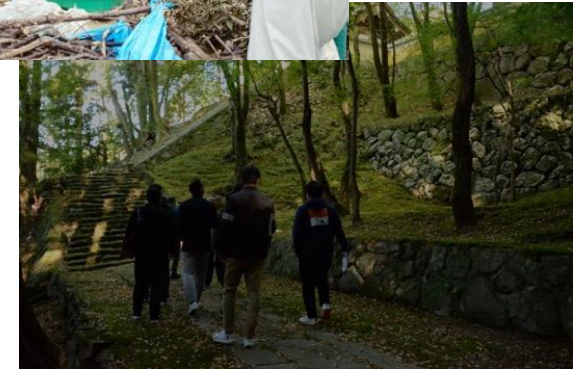
### ①地域市民のコモンズ意識およびコミュニティの醸成

梅小路公園における土中環境改善ワークショップを通じ、共同作業による市民同士のつながりやコモンズについての意識、さらには自然は自分たちで維持するものという意識を醸成する



### ②梅小路・丹波口を拠点としたサステナブルツーリズム

丹波・丹後地域へのゲートウェイである「丹波口」を拠点とし、都市と農村を一体として捉える「テリトリーオ」の概念に基づき、サステナブルツーリズムを実施・拡大していく。

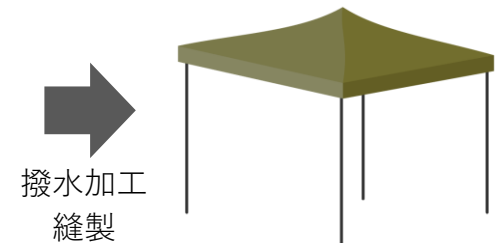


### ③副資材を用いたイベント用備品の企画・試作・レンタル

京都府内の産業の製造過程において発生する副資材を活用し、梅小路公園でのイベント等で用いられる備品を製作し、それらをイベント出展者にレンタルする事業を実施していく。



例) 丹後地域で製造されているポリエステルちりめん生地



例) イベント用テント

# 3か年状態目標

## 2026年度末の状態目標

- ・緑化フェアをきっかけとした事業を通じて、「梅小路・丹波口から北中部に行く」という動きが地元・国内外の人たちに定着し、特にツアーが安定収益化している
- ・府内外のプレイヤーが梅小路・丹波口を拠点として様々なコラボレーションプロジェクトが生まれている

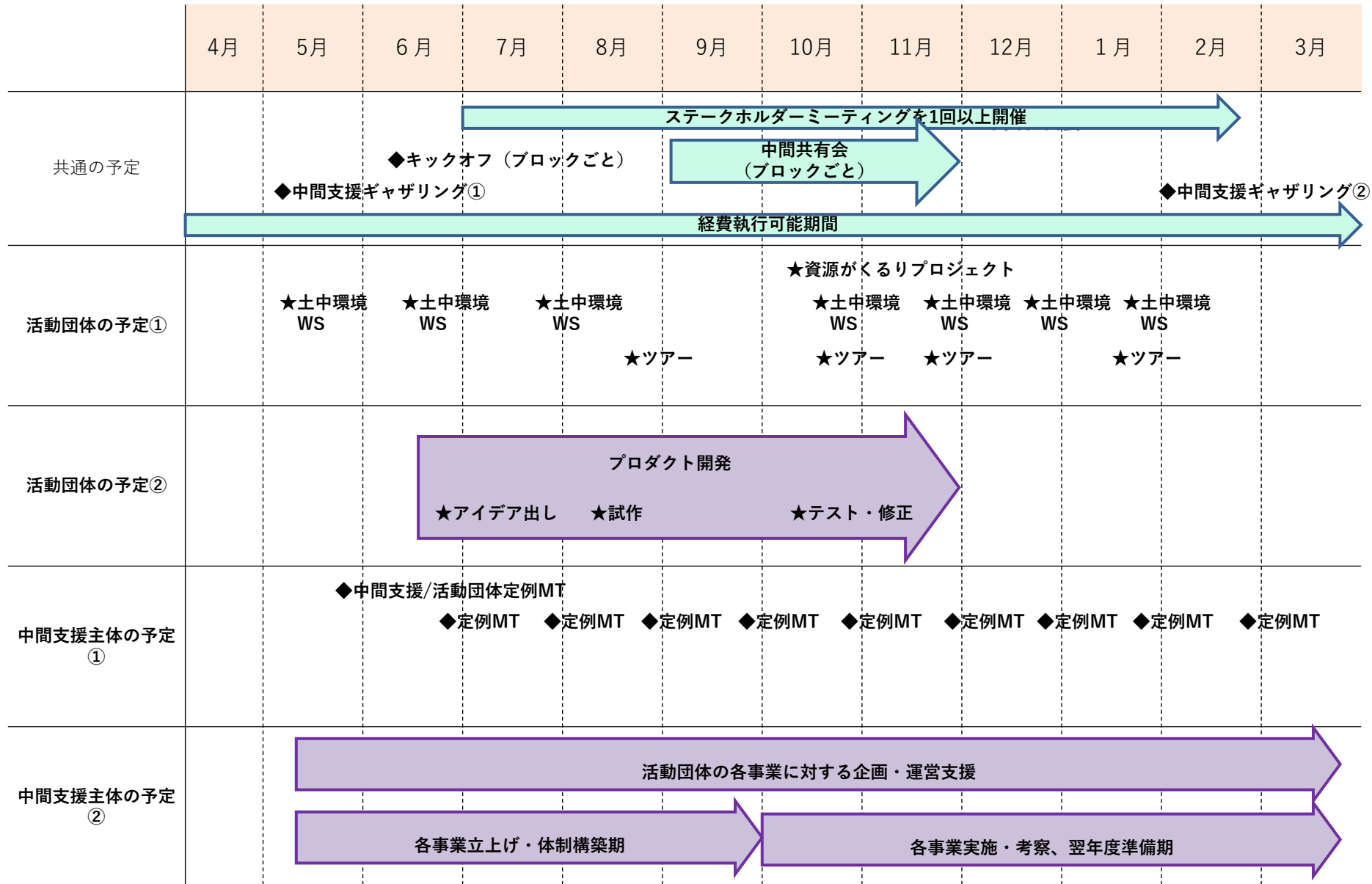
## 2025年度末の状態目標

- ・大阪・関西万博をきっかけとした事業を通じて、地元・国内外の人たちへ「梅小路・丹波口＝クリエイティブタウン」という認知が進んでいる
- ・3事業の形が整い、それぞれの運営に関与する人たちが広がっている
- ・活動するプレイヤーの増加や相互連携（コラボレーション等）が進んでいる

## 2024年度末の状態目標

- ・3つの事業が定着し、2025年万博へ向けての基盤が整っている
- ・地域の市民、プレイヤーとの相互認知が進んでいる

# 活動計画



# 中間支援主体より

## 中間支援主体の紹介

○「梅小路クリエイティブプラットフォーム」は、JR京都駅～梅小路京都西駅～丹波口駅のJR西日本山陰線沿いエリアである「京都駅西部エリア」の地域資源を活かした「クリエイティブタウン化」を目指すエリアマネジメント団体です

○構成メンバーには、設立経緯の異なる複数のまちづくり協議会(※1)、まちづくり会社(※2)、地域事業者(※3)、公園管理者(※4)が参画しておりオブザーバーとして京都市も議論参加しています

※1 「京都・梅小路みんながつながるプロジェクト(事務局：JR西日本)」  
「梅小路京都西・七条通賑わいづくり協議会(事務局：スターツ)」

※2 「(株)梅小路まちづくりラボ」

※3 「京都リサーチパーク(株)」 「COS KYOTO(株)」

※4 「(公財)京都市都市緑化協会」

## 活動団体の取組へのコメント、中間支援の方針・計画

○活動団体のメンバーが若手中心、小規模事業者中心ということもあり、大手地域事業者への賛同・協賛等拡がりに欠ける現状

○実施してきた各パイロット事業の収益化や、協賛企業の募集等コミュニティの広がりはこちらから

○サステナブルツアー等、大阪・関西万博2025を契機に企画中の事業は収益化が特に遅れている



○活動団体の運営プロセス向上に向けたサポートのため、若手・小規模への多様な地域の事業者等からの信頼・理解を得ていくための調整・支援へ向けた伴走を行う。

○各事業の収益化に向けた協働トライアルの実施に向けた資金・人材・スケジュール等のマネジメントや必要に応じたプレイヤーの紹介等を行っていく。